奥殿古墳跡

土居町小林の国道１１号線南側の高台、里城跡の南に続く耕作地にあった。

平成１１年７月から８月に掛けて土居町教育委員会によって発掘調査が行われ、現在は耕作地となっている。出土した土器片などから古墳時代終末期の７世紀初頭の造営と見られている。

調査当時、開墾のため紛糾はほとんど残っていなく、石室の側壁及び天井石が露出し、玄室も上流からの土砂が堆積している状況であったと発掘調査報告書に記されている。

発掘調査報告書によると、石室は西向きに開口する両袖型の横穴式石室で、玄室は長さ３．５㎜、幅１．８５ｍほど。

玄室から１対の耳環と銅製刀子把金具が出土している。その他の出土品は、ほとんどが土器の細片であった。

※「耳環」：耳飾りのこと

※「銅製刀子把金具」：小刀のとっての部分を包む薄い金属